

〈国際金融パネル〉

欧州財政危機の要因とその世界的波及  
- Eurozone Crisis: Its Causes and Global Implications -

座長 学習院大学 清水順子

パネルの趣旨

今回の欧州危機は多様な側面を持ち、現在も新たな展開を遂げている。危機の発端となったギリシャをはじめとする周辺国の財政危機とソブリンの暴落は、欧州金融機関の債務超過を伴って欧州各国に波及し、世界金融市場におけるリスク回避行動を誘発した。さらに、リーマンショック時と同様に、欧州での財政緊縮による経済停滞が貿易を通じた実物経済の経路により、日本や中国をはじめとするアジア新興国にも大きな影響を及ぼしつつある。

欧州危機が深刻化した背景には、ユーロという共通通貨制度に欠陥があり、ユーロ圏全体の危機を救うためには共通通貨ユーロの下でより本格的な財政統合もやむなし、という意見も多い。しかし、財政危機発生の原因をユーロだけに押し付けていいのだろうか？我々は、欧州財政危機を共通通貨導入の失敗という対岸の火事として捉えるのではなく、それぞれの国が現在直面している諸問題を解く鍵としてより深く分析し、議論する必要があるだろう。

本パネルでは、発生から既に二年が経過した欧州財政危機の要因やその波及が拡大した経緯について、国家のガバナンス改革や金融市場における銀行行動といったマクロ・ミクロ両面のアカデミックな視点に加えて、国際銀行業務に携わる実務家の立場から欧州財政危機への処方箋がはらむリスクを指摘した上で、EU 経済と財政学という二つの観点から討論する。

ユーロ圏がさらなる危機に陥った時に、その影響は国際金融市場を通じて他の地域に波及するリスクがある。欧州系銀行の金融仲介程度の大きさを考慮すれば、世界の金融システムに影響が及ぶことも考えられる。そして何よりも欧州の財政危機下におけるガバナンス改革の行方が日本の財政問題へ波及する可能性も考慮すべきだろう。本パネルでの討論を通じて、研究者や実務家が相互に意見交換し、多角的な視点から活発な議論が行われることを期待したい。